



信州

人と自然のまち

小海町に住もう

移住・定住の手引き



感じる

八ヶ岳の自然に囲まれた小海町は観光名所の宝庫。
自然・歴史・文化・食をぜひ体感してみてください。



1



2



2



3



4



5



6



7



8

①松原湖(猪名湖)

松原湖高原の中心をなす松原湖。猪名湖、長湖などの湖沼群を総称して松原湖といい、一般には最も大きい猪名湖を松原湖と呼んでいます。季節により水面の色が変わり神秘的です。

②小海リエックス・ゴルフ場、スキー場

八ヶ岳、浅間山、秩父連山を望み、ゴルフ、テニス、スキーなどのスポーツエリアとチャペルなどもある滞在型リゾートホテル。

③白駒の池と原生林

苔むした太古から続く深い森に、神秘的な白駒の池。駐車場から池までは、原生林の中を歩いて15分ほどです。秋の紅葉が素晴らしく多くの観光客が訪れます。

④松原湖灯籠流し花火大会

数百もの灯籠が湖面をゆらゆらと漂い、色とりどりの花火が夜空に咲き乱れ、さらに湖面に映し出され、辺りは幻想的な雰囲気になります。

⑤八峰の湯

高原にわたる爽やかな風と豊かに湧く湯。心から体から五感が蘇る。八峰の湯の浴場は、内湯(源泉掛け流し、高温浴槽)、遠赤サウナ、露天風呂、岩盤浴と充実しています。

⑥鞍掛豆

町では遊休農地を活用して、鞍掛豆の栽培に取り組んでいます。鞍掛豆は青大豆の一種で、豆の模様が「馬に鞍をかけたような」見た目から「鞍掛豆」と呼ばれています。また、その風味から「のり豆」、最近では「パング豆」とも呼ばれます。

⑦氷上わかさぎ釣り

12月下旬から3月上旬にかけて行われる結氷した湖上でのわかさぎ釣り。道具のレンタルもあり、松原湖、長湖で楽しめます。

⑧小海町高原美術館

松原湖高原に建つ、安藤忠雄氏設計の美術館。洗練された空間は周囲の大自然と調和し、芸術に親しむための環境を与えています。

暮らす

豊かな自然環境で、安全安心に暮らせる町は魅力的です。

交通

町民の主な交通手段は車ですが、町内5路線運行の町営路線バスや、観光客、通学の足となるJR小海線が走っています。



商業施設／教育機関

町内にはスーパーマーケット2店、コンビニエンスストア4店、ホームセンター2店等があり、小海駅前を中心に様々な商店が点在し、日常の暮らしを支えています。教育機関は、保育園・小学校・中学校・高等学校がそれぞれ1校ずつあります。小海小学校は町費による講師がおり、少人数教育等きめ細かな指導をしています。

病院

長野県厚生農業協同組合連合会が運営する内科、小児科、外科、整形外科、リハビリテーション科があり、また緊急時に対応できる屋上ヘリポートを備えた佐久総合病院小海分院、小海駅に併設し、JR利用者に利用しやすい小海診療所など、医療環境が整っています。



佐久総合病院 小海分院

育てる

親も子ども、のびのび ゆったりした暮らしができる。保育料の負担軽減を実施しています。

子育て支援センター

乳幼児及び保護者等が交流を行える場所を開設、子育てについての相談、助言情報、教室講座、その他の援助を総合的に行うことにより、地域子育て支援の充実を図り、健やかな成長を目的とした「ひろば」です。



児童館

町内には小海なかよし児童館があり、地域の幼児・児童が学校が終わってからの時間を安全に過ごせる設備が整っています。町の自然や伝統、食文化等にふれるイベントも開催しています。



子育てサポートこうみ

地域全体で子育て支援を目的に、児童の登下校の見守り、笑顔あいさつ運動、保育園、児童館の教室、イベントの講師やサポート、学習ボランティア、育児サポートを実施しています。

働く

小海町には様々な仕事があります。
自分にあった職場で才能を活かしてみませんか。



農業

高原特有な冷涼な気候を活かし、白菜、レタス、キャベツ等の高原野菜の栽培が盛んです。また、近年は、無農薬の野菜づくりも盛んです。自分たちで安全・安心な農作物をつくる新規就農を目指してみませんか。

林業

広大な国有林と町有林が大きな面積を占める小海町において、林業の継承は重要です。山林を育て、地域環境を守るために間伐作業等が行われています。小海町内には南佐久中部森林組合や個人で林業を営む方がいます。



商業

今まで勤めてきた会社でのキャリアを活かしつつ信州で暮らしたら…。培ってきた技術や人脈が移住先に新しい風を起こすこともあります。町内には建設土木業、建材業、飲食店、観光業を営む企業があります。新天地で新たな挑戦をしてみませんか。

インターンシップ制度の活用

八ヶ岳の麓、高原のきれいな空気のなかで、仕事体験をしてみませんか。

小海町を活動の場として、町の農業・林業・商業等など様々な職の場を体験できます。

●農業

時期により、土づくり・畝立て・マルチ張り・育苗・定植・収穫の体験及び技術の習得

●林業

地拵え・植え付け・下刈り・除伐・間伐・主伐の体験及び技術の習得

●商業

パン屋、豆腐店などの各作業工程の体験及び技術の習得

●その他

地域の活性化などに関すること

※町のホームページで町内企業の情報を見ることができます





小海町で定住する方を応援するための取り組み

定住促進支援制度

暮らす

子育て世代住宅取得助成事業

- 対象者
19歳未満の子どものいる世帯、もしくは夫婦のどちらかが40歳以下の世帯
- 対象要件
居住部分が50㎡以上の物件の取得
(新築住宅・増築・中古住宅の取得)
- 助成金額
・新築住宅の取得 100万円
・増築・中古住宅の取得 50万円
- *新築・増築住宅を町内業者で建設した場合20万円が加算されます。(中古住宅は適用外)
- *19歳未満の子どもが世帯にいる場合、1人につき10万円が加算されます

住宅リフォーム助成事業

- 対象者
・小海町に住民登録している方
・対象となる住宅所有者・借主
- 対象要件
・自己または家族の居住に供する住宅
・店舗併用住宅の住宅部分
・借家住宅(借主が実施する場合)
- 工事を行う業者要件
小海町内の住宅関連業者(個人事業者の含む)
- 対象となる工事
・個人住宅の増築・改築・模様替え・補修・設備改善工事及び新築工事
- 助成金額
・対象工事費の20%
(中学生以下の者が同居している場合は25%)
・助成限度額20万円
(中学生以下の者が同居している場合は25万円)

育てる

子育て支援クーポン支給事業

- 対象者
・小海町に住民登録している小学校及び中学校に入学する児童・生徒を養育している保護者
- 支給方法及び支給額
こうみP-ねっと協同組合商品券で交付
・小学校入学児童1人につき1,000円券 20枚
・中学校入学生徒1人につき1,000円券 30枚

高校生等通学費補助事業

- 対象者
高等学校等に鉄道で通学する子を養育している保護者
- 補助方法及び補助金額
通学定期券の購入費用の1/3を現金支給で補助

子育て支援おむつ費用助成事業

- 対象者
小海町に住民登録している2歳に達するまでの乳幼児を養育している父または母
- 助成方法及び助成額
こうみP-ねっと協同組合商品券で交付
対象乳幼児1人につき、おむつ費用として1ヶ月あたり2,500円
- 保育料負担軽減制度
○国の基準より低額の料金となっており、第2子は半額、第3子以降は無料
- その他
○医療費は、県制度に加え、町独自で支給対象を拡大し、18歳まで無料
○町営バスは高校3年生まで無料

働く

青年就農給付金(国補助)

- 対象者
自ら独立して農業を開始する方に対し、給付金を給付します
- 対象要件
原則として45歳未満で独立、自営就農する方
就農する市町村の「人・農地プラン」に位置づけられている方で、就農後の所得が(本給付金以外)が250万円未満の方
- 支給方法及び支給額
給付額 年間150万円(最長5年間)





移住者の声

小海町に移住された方々のきっかけや、移住しての様子、メッセージなどをご紹介します。

移住歴19年

的埜大介さん(45歳) 東京都出身

生活も遊びも、
田舎で暮らすメリットを
何もないところから
自分で創る。



●移住のきっかけ

20代の頃、奥さんと二人で有機農業を目指したいと思うようになり、候補地を探しているなか、奥さんの知人から小海町を紹介されました。山登りを趣味とし、八ヶ岳が好きで、「いつかは!」という気持ちがあった的埜さんにとっては、運命的な出会いであったようです。

●移住しての生活

紹介された家は、当時築70年ほどの民家。リフォームをしながら約2反の畑と共に移住生活をスタートしました。全てが初体験のなかで始まった有機野菜づくりは苦戦の連続。しかし、当時26歳の青年には怖いものはなく、夫婦共々楽観的で、創造的な生活エネルギーが満ち満ちていたようです。ご本人曰く「何とかなるんです。」

小海町に有機農業を広めるために「こうみゆうきちゃん倶楽部」の結成にも参加。現在は会長に就任し、就農のために移住された皆さんとのコミュニティーづくりや、栽培方法の研究、市の開催、新たな販売先の開拓に奮闘されています。

●メッセージ

「生活も遊びも、田舎で暮らすメリットを何もないところから自分で創る。また生活や遊びをさせてくれる地域にも恩返しの気持ちでコミュニケーションすることが大切だ!」

的埜さん移住19年の生活のなかでの実践された重みのあるメッセージでした。



移住歴7年

後藤資幸さん(43歳) 千葉県出身

何かをする、つくる、
役にたちたい、治すなど
強い目的を



●移住のきっかけ

あるきっかけで小海町に来る機会があり、小海町に通う生活のなか、山々に囲まれ、清涼な空気やおいしい水のある小海町の環境が、不思議と多忙な都会で生活する、ご自身のストレス解消となっていることに気付き、小児喘息とアトピー性皮膚炎で苦しんでおられたお子さんのアレルギー症状を改善するには、この地しかないと思うようになり、家族での移住を決意!

●移住しての小海町では

移住に関しては様々な不安、戸惑いがありましたが、お子さんの症状を改善する目的の方が大きかったそうです。移住後、一番の目的であったお子さんのアレルギーは、成長に伴い、大きく改善の方向に向かっているとのこと。現在は、ご自身、休日でも忙しい田舎生活(食料等の買出し、冬に備えての薪割り、夏場の草刈等々)のなかで、バンドにも参加し、ゆっくりと田舎の多忙生活!を楽しんでいます。

●メッセージ

「何かをする、つくる、何かの役にたちたい、何かを治すなど、強い目的を持って移住してください。田舎暮らしは自分で動いて工夫し成し遂げる気持ちが必要です。しかしながら、その工夫も次第に楽しみになります。」後藤家の田舎生活は、まだまだ発展途上。次の目標が気になります。



お問い合わせ

小海町役場総務課 企画係

〒384-1192 長野県南佐久郡小海町大字豊里 57番地1

TEL 0267-92-2525 FAX 0267-92-4335

E-mail koumi@koumi-town.jp web http://www.koumi-town.jp/



信州

Kita-Yatsugatake KOUMI “Slow Life”
北八ヶ岳山麓 松原湖高原別荘ライフ





自然豊かな田舎で、ゆとりや潤いのある時間を過ごしたい！

新天地での田舎生活。理想的な移住地が見つかって、いきなり住み慣れない土地へ移るのは不安やリスクがつきものです。小海町では、空き家バンクなどの支援制度の充実や環境整備が進み、移住する方が年々増えてきています。まずはセカンドハウスを構えて、行ったり来たりの二地域居住をしながら、少しずつ慣れていくのはいかがでしょうか。

星見ヶ丘別荘地

松原湖高原でふるさと暮らし 移住・二地域居住

今、都会で働く方にとって、二地域居住というライフスタイルは人生設計の上での一つの選択肢となってきています。

二地域居住の基本的なスタイルは、ウィークデーは都会で働き、週末や休暇を田舎で過ごす生活ですが、遠すぎでは続きません。前もって計画を立てなくても、「ちょっと行ってくるか」と気軽に出かけられる距離感が大事です。

その点小海町は、都心からのアクセスが比較的良く、移動時間は約3時間程度。まさに理想的と言えます。しかも、周囲を囲む美しい山々の景観や、四季折々の自然の風景、そして美味しい野菜といった大地の恵みも楽しめます。

穏やかでゆっくりとした時間が流れていて、その中に身を置いていると、秒刻みで動いている都会で生じたストレスが解消され、心が癒され、エネルギーが満ちてきます。

小海町での暮らしをイメージしてみたいはいかがでしょうか。

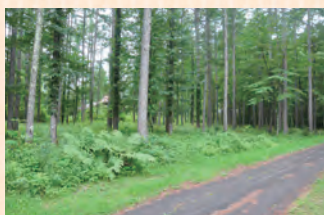


別荘地の景観

移住された方々の感動体験

移住者・新井さん談

“10月にオープンした楽集館の図書館とトレーニングルームを見学した帰り道でした。ヘッドランプの灯りで歩いていて、ふと空を見上げたら…、全天をぐるりと見渡しました。時計は6時前でした。都会なら雑踏の最中の時間です。小海町に住んで最初の感動でした。”



移住者・後藤さん談

“松原別荘地内を何度も周り、小海町開発公社の職員さんにもいろいろ教えてもらいながら、何も建っていない土地を見ては、妻と「ここだとこんな感じの家を建てたいね」とプランを描きました。そんな中、ふと「売家」の看板が目にとまり、自分で不動産屋に連絡をして、見せていただいた物件が今の住まいです。”



移住者・新井さん談

“スキー場に向かう道は、畑の中の一本道というような道ですが、堂々とした八ヶ岳に向かう道。目の前に、真正面に現れた八ヶ岳の姿に、思わず車を停めて見入りました。帰り道には、夕暮れに浮かぶ八ヶ岳のシルエット。こんな間近に住むことができたんだと胸が高鳴りました。”

■ 区画図



星見ヶ丘別荘地

- 所在地：長野県小海町松原湖高原
- 管理：（一社）小海町開発公社〈常駐〉
管理センター有り（八峰の湯内）

土地の権利状態

- 権利形態：借地権（地上権【旧法】）※
- 目的：建物所有
- 存続期間：平成17年6月15日～ 35年間
（その後も無償更新）
- 地代：1㎡あたり年額32円（5年毎に更新）
- 価格（借地権取得費）：更新料無料
おおよそ300万円～500万円
（敷地面積により変動）
最多価格帯400万円
- 管理費（年間）：建物無し18,000円
建物有り25,000円
- 水道加入金：162,000円（管径13mm）

※借地権のみです。

「移住」「二地域居住」 松原湖高原に居を構える 理想のリゾートスタイル



移住の暮らし

後藤 資幸 さん (44歳)

出身地：千葉県八千代市
移住年：2008年移住
移住時の家族構成：夫婦、子ども二人
前の仕事：会社員（技術職、営業等）
現在の仕事：町臨時職員（八峰の湯）



後藤さんの“ある一日”（休日）

- | | | |
|-------|-------|------------------|
| 5:30 | 起床 | |
| 6:30 | 送迎 | バス停もしくは学校へ子どもを送る |
| 7:00 | 朝食 | 自宅の庭で食べる(夏場のみ) |
| 8:00 | 作業 | 家庭菜園、薪割り、田んぼの草取り |
| 11:00 | 趣味の時間 | 楽器(ドラム)の練習 |
| 12:30 | 昼食 | 自宅の庭で食べる(夏場のみ) |
| 13:00 | 買出し | 町内へ燃料や食料の買出し |
| 16:30 | 送迎 | 松原バス停へ子どもの迎え |
| 18:00 | バンド練習 | 北牧楽集館にて仲間とバンド練習 |
| 21:00 | 夕食～入浴 | 食卓に家庭菜園の野菜が並ぶ |
| 22:00 | お勉強 | 子どもの宿題に付き合う |
| 23:00 | 就寝 | |

緑多く、水と空気のおいしいところへ…

8年前に千葉県より移住してきました。サラリーマンを長くやっていましたが突然辞めて、縁あって小海町の八峰の湯の仕事に携わっています。移住前の前職は営業で、人の顔を覚えるのは得意でした。それが今の仕事にも役に立っていると思います。

移住当初は町内の集落に半年ほど住んでいましたが、移住の主な目的が子どもの喘息やアトピーの改善でしたので、より緑の多く、より水と空気のおいしいところを探すようになりました。松原別荘地に限らず、隣村の別荘地などもよく見て周りしました。

住む場所により子どもの通う学校が変わるため、子どもにも学校を見てもらい、「どの学校に行きたい？」と聞くと「小海小学校！」との答え。それなら小海の松原湖高原別荘地にしようと、目標を絞って物件を見て周りしました。

県道に面した物件で、バイクなどの騒音も気になりましたが、なにより永住となると冬期に家からすぐに出られる場所でないといけないという条件の方が強く、ここに決めました。建物本体よりも付帯する水道設備などの劣化が見られましたが、修理は自分ですることで、売値よりも格安で譲っていただけました。

それから約8年ですが、自分で納得いくよう、地道に修理やリフォームを行い、昨シーズンよりも今シーズンは少しでも快適に生活できるように、今もプランを練っています。昨年末は水道工事を自分で行おうと、ずっと穴掘りをしていました。



小海町に住んでよかった!

山登りが一番の趣味で、現役で働いている頃は、いつかは山の近くで暮らしたいと漠然と思っていました。2012年11月に定年退職、それ以降は年々再雇用契約で働いていましたが、それも65歳まで。それから後はどう暮らしていくかを考えるようになっていました。

2014年9月、天狗岳の登山ルートを検討していて、登山口のバスダイヤを調べていたら、それが小海町のホームページでした。「移住・定住をお考えの方へ」という文字が目に入り、小海町がどんなところなのか実際に見てみたくなり、すぐに小海町を訪ねてみました。

小海町の最高峰が天狗岳ということを知りました。天狗岳は、八ヶ岳と北八ヶ岳の丁度中間に位置する山です。その八ヶ岳の裾野にある小海町。町の東側は秩父山塊です。それを目の当たりにして、このようなところに住むことができたらという思いが募りました。

2015年5月連休明けに、小海町のホームページに「小海町に住もう」という移住・定住ポータルサイトがあるのに気づきました。空き家バンクで紹介されていた物件を見て、魅力的な家だなと購入を決意しました。小海駅から、八ヶ岳の裾野の末端を一段上がった森の中の一軒家でした。

個人の方が別荘として建てられた家でした。小海町でお会いする方々に、東京から来ることを伝えると皆さん口を揃えて「寒いですよ」と。小海町の業者さんのアドバイスにもとづき、冬に生活しやすくなるよう改修工事をし、凍結防止帯の点検・確認をしていただき、12月に転居しました。65歳で地方移住としていましたが、2年前倒しとなりました。

「小海町に住んで大丈夫なんだろうか」正直不安はありました。それが「小海町に住んで良かった」となっています。その一番の理由は、小海町で出会った方々の優しさ、温かさです。杉尾地区の新年会にも出席させていただきました。初対面の方々ばかりでしたが、温かく迎えていただきました。

自然との関わり、人との関わり、それを広めながら深めながら、しっかりと生きていくことができる町、それが小海町であると実感しています。



移住の暮らし

新井 明博 さん (63歳)

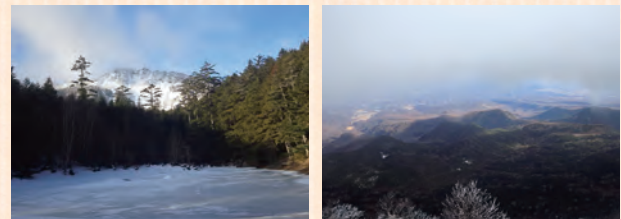
出身地：東京都

移住年：2015年12月移住

移住時の家族構成：単身

移住前の仕事：社団法人勤務

移住後の仕事：スキースクール（夏の仕事は検討中）



新井さんの“ある一日”（勤務日）

6:00	起床	
7:00	朝食	NHK-FMで天気予報とニュースを聴きながら朝食。
8:00	出勤～勤務	車でスキー場に向かう道は八ヶ岳に向かう道。日々胸が高まります。スキーレッスン「午前の部」。担当がない時は、フリー滑降。
12:00	昼休み	朝作った持参弁当で昼食。
13:00	勤務	スキーレッスン「午後の部」
15:00	退社～入浴	帰り道に「八峰の湯」に寄り、ゆったりと温泉に浸かる。
19:00	夕食	
20:00	趣味の時間	ネットで音楽を聴きながら、山のガイドブックや地図を見て登山の計画を練る。
23:00	就寝	日記を書いて床に着く。

小海町概要

長野県の東部、南佐久地域のほぼ中央に位置し、東は北相木村、西は八ヶ岳連峰を境に茅野市、南は南牧村・南相木村、北は佐久穂町（旧八千穂村）にそれぞれ接しています。

こんな特徴があります。

- 八ヶ岳連峰の裾野に広がる高原と信濃川（千曲川）の上流に位置する水と緑に恵まれた土地です。
- 岩盤が強固で大地震など自然災害の少ない、居住に適した穏やかな地域
- 高原の地形を活かした高原野菜などの農業が盛んな地域



町花 サラサドウダンツツジ

《標高》 小海町役場庁舎…855m

松原湖…1,123m

《総面積》 114.20km²

《人口》 4,925人

《世帯数》 2,015世帯

《平均気温》10℃※

住民基本台帳（平成27年10月31日現在）より

※ 平成25年 南部消防署調べ

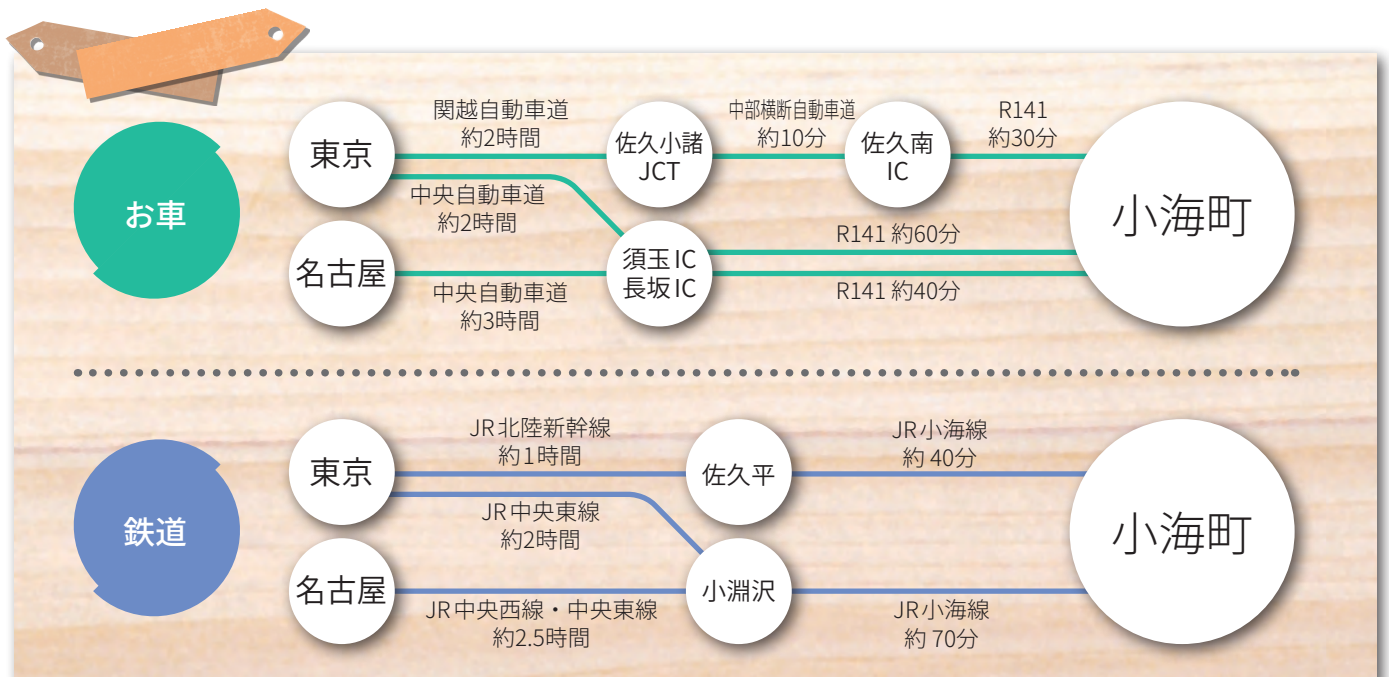
小海町へのアクセス

- 首都圏からのアクセスは便利！

車でも電車でも、東京から約2時間半から3時間で行けます。またH29年度中（予定）には、中部横断自動車道が（仮称）八千穂インターまで開通しますので、更に便利になります。



JR小海線



小海町アクティブマップ

小海町には、山、高原、湖、温泉など多くの魅力的な観光資源があります。

自然の中で、登山やスキー、スケート、ゴルフ、釣りなど四季折々の活動を楽しむことができます。加えて、美術館や音楽堂もあり、芸術文化も身近に感じられます。

長野市

車で約1時間45分

軽井沢町

車で約1時間20分

佐久市

車で約50分

北陸新幹線

松本市

車で約1時間45分



星見ヶ丘
別荘地★

星見ヶ池

コテージ

● キャンプ場

● 小海町高原美術館

● 八峰の湯



● 小海リエックス・スキーパレーゴルフ場

小海町

松原湖

● 音楽堂

● コメリ (ホームセンター)

● 小海高校

141

● 北牧楽集館 (図書館)

● 小海町役場

● 佐久総合病院小海分院

● 八十二銀行

● 小海駅

● 小海中学校

● 小海小学校

● 小海保育所

● ナナーズ (食料スーパー)

● 松原湖駅

千曲川

JR 小海線



八峰の湯

諏訪市

車で約1時間20分

八ヶ岳

冬季閉鎖区間

480

甲府市

車で約1時間20分

南佐久南部の拠点である小海町は、JR小海駅周辺に、商業施設、医療施設や金融機関があります。また町内には、スーパー、コンビニ、ホームセンターもあります。保育園、小中学校、図書館など各種施設が町の中心部にまとまっており、住みやすい町並みとなっております。

空き家・別荘紹介システム



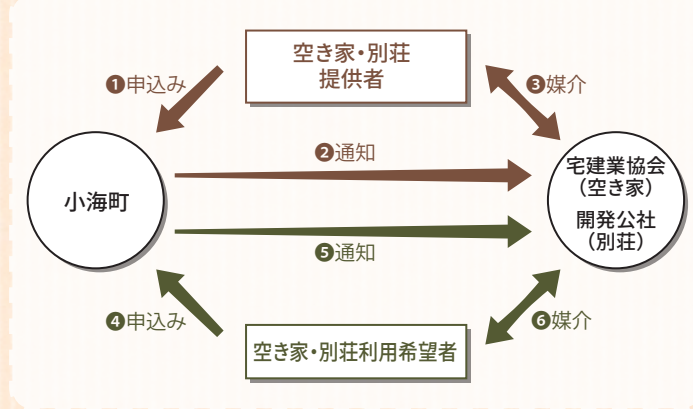
町内にある空き家又は別荘を有効利用するため、宅建業協会及び小海町開発公社と連携して、移住を希望される方に物件の紹介を行っています

手続きの流れ

i 空き家情報登録の閲覧	町のホームページ等で 空き家・別荘情報をご覧ください。 小海町 田舎暮らし <input type="button" value="検索"/>
ii 問い合わせ	空き家、別荘情報に関するお問い合わせをお受けします。 (電話、FAX、メールも可能です。)
iii 空き家バンクへの登録	登録された方に、空き家情報を提供します。 「空き家バンク」利用登録申込書と誓約書に必要事項を記入し、申込みしてください。
iv 物件見学	見学を希望される物件について、 物件管理者がご案内します。
v 契約の交渉	物件の売買・貸借契約は物件提供者または小海町の物件を管理する不動産業者と利用者自身の直接交渉になります。
vi 契約成立	契約が成立したら、入居日等を決定し、実際にご利用いただけます。小海町での生活をお楽しみください。町での暮らしについて、ご不明な点がございましたら、お気軽に町役場へご相談ください。

- ※別荘を購入する場合は、売買等にかかる代金のほか、管理料及び地代が毎年発生します。詳細は、小海町開発公社へお問い合わせください。
- ※賃貸の場合であっても、原則として現状引渡しとなります。物件に荷物等が残っている場合の処理費用や清掃、修繕が必要な場合の費用は借主のご負担となる場合がございます。

空き家紹介システムの仕組み



移住・定住促進支援制度

小海町で移住・定住する方を応援するための取り組み

住宅リフォーム助成事業

- * 対象**
 - ・小海町内事業者が実施する、小海町に住居登録のある個人の住宅の増改築・補修等
 - ・借主が実施する場合も可
- * 助成金額**
 - ・対象費の20%(上限20万円)
 - ・中学生以下の者が同居する場合は25%(上限25万円)
 - ・助成額の8割は現金支給、2割は地域通貨(Pねっと券)支給

松原湖高原コテージでのお試し居住

- * 対象者**
 - 小海町で移住、二地域居住を検討されている方(年齢・性別等問いません。)
- * 期間** 1泊2日
- * 費用負担** コテージ利用は無料
※お越しになる交通費や食事などは実費負担となります。
- * コテージ概要**
 - ・14:00～翌10:00の利用
 - ・1泊4～5名まで

田舎暮らし体験～インターンシップ～

- * 対象者**
 - 小海町での暮らしに興味のある方(年齢・性別等問いません。)
- * 概要**
 - 1泊2日以上で、町内の民宿等に宿泊しながら、町の暮らしと仕事を体験。体験内容は農林・商工・宿泊業等、応相談。
- * 費用負担**
 - 宿泊費用・体験料・保険料は町負担
 - ※お越しになる交通費や食事などは実費負担となります。

お問い合わせ

小海町役場総務課
企画係

〒384-1192 長野県南佐久郡小海町大字豊里57番地1

TEL 0267-92-2525 FAX 0267-92-4335

E-mail koumi@koumi-town.jp URL <http://www.koumi-town.jp/>

田舎暮らし小海町移住ポータルサイト URL <http://www.iju-koumi.jp/>